

研究機関：広島大学

研究課題名	早期慢性膵炎診断における EUS 所見の重要度評価
研究責任者名	広島大学病院 消化器・代謝内科 教授 茶山一彰
研究期間	2018年5月9日（倫理委員会承認後）～ 2019年3月31日
対象者	2007年4月1日から2017年7月31日の間に、広島大学病院 消化器・代謝内科で膵臓・胆道の精査目的にて超音波内視鏡検査（endoscopic ultrasonography: EUS）を施行した患者のうち、早期慢性膵炎の EUS 診断基準を満たした患者。
意義・目的	2009年に慢性膵炎の診断基準が改訂され、新たに早期慢性膵炎の疾患概念が取り入れられました。これによって、早期での慢性膵炎への医療介入が可能となり、慢性膵炎患者の予後改善が期待されています。早期慢性膵炎の診断の中心は、侵襲が少なく、外来でも施行可能なEUSですが、早期慢性膵炎の診断におけるEUS所見の重要度については未だ明らかになっていません。今回、早期慢性膵炎におけるEUS所見の重要度を評価し、早期慢性膵炎患者を適切に拾い上げるために重要なEUS所見を明らかにするため、この研究を計画しました。
方法	本研究は、診療録（カルテ）情報を調査して行います。カルテから使用する内容は年齢、性別、飲酒歴、上腹部痛の有無、血液検査（血清アミラーゼ、膵型アミラーゼ、リパーゼ）、EUS 所見などです。 （個人を特定可能な情報は解析に用いません）
共同研究機関	ありません。
試料・情報の管理責任者	広島大学病院 消化器・代謝内科 教授 茶山 一彰
個人情報の保護について	調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。 研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。
問合せ・苦情等の窓口	〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3 Tel : 082-257-5192 広島大学病院 消化器・代謝内科 助教 石井康隆